

平成 15 年日本物理療法学会機関誌編集委員会 議事録

日 時：平成 15 年 2 月 8 日（日） 16：30～18：15

会 場：日本理学療法士協会

出席者：両角、藤原、中山、柳澤、鈴木、山本、菅原

書 記：加地、金原

1．編集委員長より

査読時に、文章の脱落や図表等に不備があったことの報告とお詫び。

2．機関誌第 11 号投稿論文審査

審議：論文の種別に関しては希望種別を優先すべきか。

結果：基本的には、この委員会で決定するが、あくまで参考にして頂ければ良い。昨年に関しても同様に行なっている。

審議：活字になった論文は、パブリックなものとして扱う必要がある。そのため、「他で発表してないかどうか」を編集委員会で調査する必要があるのではないか。

一つの論文を、切り口を変えて、何本か書くこともある。これに関しては、やはり、投稿時に確認する必要がある。これらは、発表本人のモラルによるところでもある。

結果：来年から他誌への重複投稿でないことを確認する。

審議：実験研究には、倫理委員会の承認が必要である。認知度が低いため伝える必要がある。論文には、倫理委員会を通しているかを必ずその文章として入れておくことを確認する。今回の機関誌では、患者の同意を確認する文章が入っていないのが現状である。病院や大学の発表者には、倫理委員会の審査を受けたかなどを確認する必要がある。

結果：最終構成時に、筆者へ患者・被検者の口頭や書面で同意を得ている、あるいは倫理委員会の審査を受けているなどの文章を加筆して頂くようにする。これについては動物実験も同様である。また健常人は口頭でもかまわないが、倫理的な文言を入れることで決定。また来年度からは筆者に同意の有無を確認にし、書面として残す。また、投稿規程に加える事とする。

審議：共同執筆者への同意書については必要か。

結果：来年度より同意書を作成する必要がある。

質問：報告の種類が実践報告だけでは足りない。

結果：報告を調査報告、実験報告、実践報告の3つに変更する。なお、ケーススタディは、実践報告とする。

*5月の評議委員会に投稿規定の原案を提出し、審議する事とする。

3．論文審査結果

日比野論文：報告。

野村論文：短報。症例なら共同執筆者にMDを入れておく必要がある。共同筆者、患者に同意を求めたことを必ず記入する。口頭を含めて文章で入れておく。写真に目隠しをする。

滝本論文：報告。

小島論文：報告。

森田論文：実践報告。同意の確認を行い、口頭を含めて文章で入れておく。

金井論文：報告。

金原論文：原著。

平上論文：原著。

岡部論文：報告。

佐々木論文：短報。

杉元論文：保留。

甲田論文：報告。

南角論文：実践報告。共同執筆者にMDをいれておく必要ある。

*総合評価で修正後、再査読が必要とされた論文については、査読者に返送し、再査読を行う。査読者へ前回の査読表と一緒に郵送する。

4．機関誌形式について

審議：投稿規定には、日本語論文でも英文キーワードを入れるようにとある。

結果：英文アブストラクトがあるときにのみ英文キーワードを入れる事とする。これについては投稿規定を修正する。またアブストラクトは本文、文献の後に記載する。英文、和文のアブストラクト、理学療法学では両方記載、これに関しては規定の通りとするため、日本語論文は、英文アブストラクト、英文論文は日本語アブストラクトとする。

5．投稿規程について

審議：今回の共同執筆者が本会会員であるか、確認する必要があるか。

結果：共同執筆者について、本学会の会員でなければならない。臨時会員として、制度があることを文章化する。今年度は入会していなくても良いが、来年度からは入会を原則とする。

審議：句読点について、論文により違いがあるが統一する必要があるか。

結果：日本語では、読点はカンマ、句点はピリオドとし、編集委員で修正する。来年度には投稿規程に記載する。

審議：文献の共著者は3名とあるが、論文により記載がない。

結果：文献の共著者は3名とする。4名からは他で記載する。また記載方法については投稿規定に従う。

審議：論文名のランニングタイトルが、投稿規程にないが必要か。

結果：ランニングタイトルは、どの雑誌で、いつの論文かを知るものであるため、来年度より、論文タイトルの記載は必要ない。

5．機関誌発行について

今後の予定としては2月下旬までには著者構成を終え、年度内に11号を発行する予定。

6．その他

別刷りについては自費購入となる。別刷りは30部で4000円(税別)、50部で4500円(税別)である。別刷りは、50部と100部単位でよいのではないか。

最終構成時に筆者に必要な有無を確認することにする。